❶ 伏見稲荷大社（ふしみいなりたいしゃ）



稲荷神社の総本宮。創建は和銅4年(711)2月初午の日に、秦伊呂具が稲荷山の三ヶ峯に稲荷の神をお祀りしたことに始まると伝える。古くは五穀豊穣を願い、今日では、商売繁盛や家内安全等の守護神として広く信仰を集めている。

❷ 奥社奉拝所（おくしゃほうはいしょ）



稲荷山の神饌を遥拝するために設けられたといわれ、稲荷山三ヶ峯は拝所の背後に位置する。拝所横には、「後醍醐天皇の歌碑」と願い事の成就の可否を試す「おもかる石」がある。

❸ 伏見神宝神社（ふしみかんだからじんじゃ）



鏡・剣・玉・比礼（ひれ＝魚の鰭のようにひらひらとした呪具）等十種（とくさ）の神宝を社名の縁起とする。また境内にはかぐや姫と宇多乃君（歌を交わされた帝）日継の御子と月の精霊とのロマンに因む「宇多乃君かぐや姫愛染碑」がある。

❹ ランプ小屋（ごや）



JR奈良線稲荷駅ホーム脇にある赤いレンガ造の建造物で、旧東海道本線稲荷駅の貴重な遺構である。現存する旧国鉄最古の建造物で、当時、車内照明に使われた石油ランプ等が保存されている。
見学は要予約(TEL:0570-00-2486)

❺ 摂取院（せっしゅいん）



慶長13年(1608)に建立された浄土宗のお寺。本尊の腹帯地蔵(地蔵菩薩坐像)は、解体修理により、平安時代の墨書の銘文が発見され、典型的な平安時代の寄木造りであることが判明して注目を浴びた。

❻ ぬりこべ地蔵（じぞう）



歯痛平癒にご利益のある地蔵尊。名前の由来は痛みを塗りこめる、また、土で塗りこめた壁のお堂に祀られていたためだともいわれている。6月4日の「虫歯予防デー」には、深草稲荷保勝会が法要を営み、参列者に歯ブラシを配っている。

❼ 石峰寺（せきほうじ）



宝永年間(1704～11)萬福寺六世千呆の創建した黄檗宗寺院。本堂裏山の五百羅漢の石仏群は釈迦の生涯を表したもの。伊藤若冲が下絵を描き石工に彫らせた。一山に安置された菩薩と羅漢さんの素朴で軽妙な表情に心が和らいでくる。

❽ 瑞光寺（ずいこうじ）



明暦元年(1655)日蓮宗の僧元政がこの地に草庵を結んだことに始まり「元政庵」の名でも知られる。上人は深草上人と呼ばれ広く慕われた。茅葺の山門、鐘楼、本堂、簡素な墓が、上人の人柄を伝えている。

❾ 宝塔寺（ほうとうじ）



嘉祥年間(848―851)に関白藤原基経が発願した真言律宗極楽寺が前身となる。鎌倉末期、時の住職良桂が日像上人の説法に感服し日蓮宗に改め、宝塔寺とした。総門をはじめ、本堂、多宝塔が重要文化財である。

❿ 七面宮（しちめんぐう）



七面山中腹にある七面社は、もと宝塔寺の鎮守社で法華保護の吉祥天である七面大明神（七面天女）を祀る。また、社殿左(西)側には妙見堂などが祀られている。木々の間から見渡す洛南の街並みや夕照の景色は見事である。

⓫ 完宗院（かんしゅういん）



昭和39年(1962)徳永大完が中山身語正宗の末寺 真瀧山 完宗院として創建した。ご本尊は中山不動尊。境内には大きなしだれ桜があり、その奥に優しいまなざしの母子観音がある。

⓬ 十二帝陵（じゅうにていりょう）



後深草天皇勅願の真宗院の法華堂が御陵のはじまり。いわゆる持明院統（北朝系）の十二帝の御陵でありここに御陵が営まれたことは、伏見が持明院統の皇室領として重要であったことがわかる。南北朝分立から近世の始まりといわれる天皇を祀る。

⓭ 嘉祥寺（かしょうじ）



もとの嘉祥寺は文徳天皇が、父仁明天皇陵近くに嘉祥4年(851)建立。広大な寺域も、応仁の乱などで壊滅した。寛文2年(1662)空心律師が再興。歓喜天は国内最古で「深草聖天」と呼ばれ親しまれている。

⓮ 真宗院（しんじゅいん）



浄土宗西山深草派のお寺。宝治年間(13世紀中頃)後深草天皇の帰依により、円空上人が建立。応仁の乱後、再建。現在は、円空上人廟、日観亭跡、山脇東洋一族の墓があり、天明の伏見義民一揆では伏見住民の会合場所となった寺である。

⓯ 茶碗子の水（ちゃわんこみず）



昔、都に住む茶人が、いつものように宇治川の水を従者に汲みにやらせた。従者がその帰り、ここで水をこぼし、この水を持ち帰ったところ、茶人からこの水の方がうまいと言われ、それからは、この水を茶の湯に用いたという。

滝（たき）



稲荷山にはたくさんの滝があり、まとめて「お滝」とよばれ信仰をあつめている。行者のための神聖な処でもある。主なものに末広の滝、御頻の滝、白菊の滝、青木の滝、弘法の滝がある。

地層（ちそう）

奥社奉拝所から伏見神宝神社の間の道沿いでは、鞍ヶ谷礫層と呼ばれる大阪層群の地層がみられる。この地層は60万年前頃に川の流れで運ばれてきた砂や礫が堆積したもの。
今は山の中腹だが、当時は河原であった。